NIE実践報告

1．タイトル：情報を自分の視点で探し出す ―新聞というメディアだからこそできる情報との接し方―

2．学校名

新潟県立六日町高等学校

3．実践者名（代表者名）

美濃山　ゆず

4．学年

１学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

ＨＲ　３２０名

6．単元（本時の学習課題）名

グループごとに新聞のスクラップ帳を提出・回覧する

7．目標(狙い)

新聞というツールから自分の欲しい情報を探し出す

8．評価の視点

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞提供がなされる９～１２月の各ＨＲを中心に通年で行う

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

４月ＬＨＲ
　新聞係の選出を行う（１時間）
９月ＬＨＲ
　新聞に関する事前アンケートをとる
　スクラップ帳を提出するためのグループ分けを行う（１時間）
９月以降
　新聞係：新聞提供開始以降に毎日の教室掲示および月１回程度の古紙回収に当たる
　全員　：スクラップ帳を各グループに１冊配布し、週１回その週の記事を一つ切り抜き、
　　コメントを書いて提出させる
　　※スクラップ帳の提出が継続しやすいよう、提出をグループ内での輪番制とした。
　　締め切りに対する責任感を持たせ、また個人の負担を軽減するためである。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

日々新聞を読むくせがないので、スクラップ帳があると、目を通せる。たくさんの会社の新聞があるのでそれぞれの特色を見つけるのも面白い。／自分の中の情報量を増やし、さらに他の人の記事を読んだりコメントを見て、自分とは違った考え、価値観を知ることが出来た。

12．成果と課題

本年度はまず何よりも「生徒が新聞に触れる機会を増やす」ことを意識してきた。ただし、そのための課題設定に甘さがあったため、生徒の反応は分かれた。しかし、担任団の意向で提供期間終了後も新聞購読を継続しており、また本学年だけでなく、次年度１学年団でもＨＲでの新聞設置が決まるなど、まずは教員側にこちらの想定を超えた効果が見られたのではないかと思われる。この流れをさらに活かすため、新聞を進路意識形成ための教材として位置づけ、生徒一人一人が「読めば自分の糧になるもの」として自発的に新聞を読む姿勢を身につけさせることが、次年度の課題である。